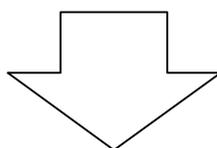


生命の海科学館見直し検討委員会 委員意見分類表

1 役割及び使命についての意見

- ・科学館としては教育関係の方が中心となっていなくては、これから発展していかないと、衰退していく、そういう方向になると思う。
- ・科学館全体としてももう少し子どもの夢を育むというか、蒲郡にしかない施設としていきたい。
- ・子供たちに科学に触れさせる、科学の好きな子を育てるという教育を目的とする。
- ・館のおもしろさというか、付加価値を付けるためにITをうまく組み合わせていく、あるいは、おもしろいイベント企画を作っていく、あるいは館そのものにストーリー性・教育性を持たせるというメニューを作っていく、「蒲郡に生命の海科学館がある」という、存在価値が示していけるのではないかと思う。それが蒲郡のシンボル、誇りになればいいと思う。
- ・子供をここに連れてきて何か教育の関連にしてほしいというのはすごく分かるし、そうしたいと思う。
- ・教育ということをやはり前面に出して、教育を中心に観光としても受け入れる体制を取っていくのが一番いいという気がする。
- ・情報機器には多大な費用がかかるため展示内容の更新が行えず、リピーターが少なくなってきた現状がある。科学館が持つ情報機器に親しませる活動（情報機器のショールームとしての活動）は役割を終えつつあり、IT社会に対応できる能力を育てるための教育活動や講習会も成熟してきた。今後の科学館の位置づけとしてはコンテンツを使うことにより情報機器に親しむという役割は持続するものの、展示内容（コンテンツ）の更新などは行わず、現状維持または漸次縮小をし、学校のカリキュラムと連携した展示を行うようにする。

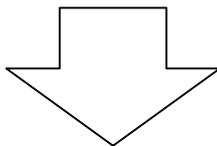


教育関係施設としての利用

(センターを前面に出すという意見)

- ・これからは確定申告でもなんでもそうだが、eTax、いわゆる電子申告の時代に入ってくる。そういう教育をしていくのが、このネットワークセンターじゃないかなと強く思う。逆にネットワークセンターのほうを全面にもっと出したほうがいいのではないかと思う。

- ・地域ふれあい活動とかで利用してもらいたいと思っている。親子で来て、一緒にテーマを設けてやれば、市民全体に少し広がったり、今まで来たことのない人に来てもらうことができると思う。
- ・蒲郡の子供はみんな来るような機会がくれたらいいと思う。自分で来たり、親子で来たり、学校から来たりで、「ああ、科学館知っている、じゃあ蒲郡の子供だね」というぐらいになったらいい、希望であるがそう思っている。
- ・うまく組み合わせさせていき、子ども会の活動とか、修学旅行とか、あるいは生涯学習の面とか、そういうふうに繋がっていけば面白くなるのではないかなと思う。
- ・コンセプトを明確にした活動が必要と考える。観光客向けの活動はリピーターを期待しない、近隣も含む市民向けの活動としては、2つあり、1つが教育施設として各学校のカリキュラムと連携した展示を行い、もう1つが、趣味や研究のための市民グループの活動・発表・展示の場とする。
- ・蒲郡の小学校に入った子は全員が科学館に入ったことがあるというふうになったらいいと思う。石を見たり、触ったり、土に興味を持ったり、子供のときに石に触ったことがあるからと古墳に興味を持ったり、外国に興味を持ったり、そういうふうな子供が生まれたいなと思う。
- ・これからの観光というのはただ単に物見遊山に竹島があるから行くのではなく、やはり体験学習ができる施設、こういう在り方がいいと思っている。
- ・石に触ることが体験ではなく、なぜ地球が滅んで、また恐竜が出て滅んで、今、私たちが生きているのかというところをこの科学館に来ただけで子供が分かるような仕組みでないと、単に古いものがありましただけでは、教育関係としてはもの足りなさを感じる。
- ・生命、海、化石にこだわらず、天体、星座など、科学一般に広くテーマを設定する。
- ・地元の方に参画していただいて、いろいろ意見交換をしてもらい、教育関係を含めて地元の理解をしっかりとっていく。
- ・蒲郡は地方都市であり、都会にある集客力がある科学館と違うので、呼び込むことが非常に大切になってくる。だから、子ども会、学校、地域の方々、観光業者を通じたあらゆる面から引っ張り込まないと相当に難しい。



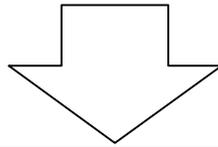
生涯学習及びコミュニティ活動施設としての利用

2 運営体制についての意見

- ・今は情報ネットワークセンターイコール生命の海科学館ということだが、むしろ生命の海科学館のほうをもっと前に出してアピールし、集客をしていく。情報ネットワークセンターのほうは後ろに下がるくらいの気持ちで運営しないと赤字対策にはならないのではないかと思う。
- ・科学館は科学館でインターネットはインターネット、情報ネットワークセンターの中のおまけのちょっとした狭いところの科学館ではなく、別に独立したような表現の仕方をしていいかと思う。
- ・今の科学館の位置づけというものが、情報ネットワークセンターとの関係で中途半端に終わっているのかなという気がする。子供の教育とかを考えて、市民に科学心を植え付けるとか、そういった意味で科学というものに力をいれていくのなら、もう少し市はこの科学館というものをしっかり全面に打ち出していく必要があるのではないかと思う。
- ・科学館に独立性を持たせないとコンセプト、ミッションが曖昧となる恐れがある。
- ・ネットワークセンターと科学館があり、どこまでが科学館かはっきりしていない部分がある。やはり科学館に独立性を持たせるという形の方がきちんとしているのだろうなと思う。
- ・よいプロデューサーと学芸員が必要。
- ・科学に理解を示す先生に講師になって来てもらったりとか、化石も学芸員にきちんとした人を雇っていけば、説明も十分出来るかなと思う。
- ・学芸員の補充についてどうするのか。充実するにはきちんとした形での補充になるのか、その辺も考えていかないといけない。
- ・新しく館長を採用して、新鮮なアイデアを生かして、新しい科学館、イメージチェンジした科学館にしてみたらどうか。
- ・生命の海科学館というテーマで、子供達、大人、いろんなことがそこで学べるようなメニュー出しをどうやっていくのか、そのためにはそういう人の確保が重要になる。
- ・長期にわたってここで勤務するということは大切だなと思う。内容をよく把握して、どういうアピールをするか、あるいはどういう営業をするかということ指導できるような市の職員、できるだけ長くここで勤務ができるというような形でないと本腰が入らないのではないかと思う。
- ・科学館の新たなミッションを実現するための最善の体制作りが必要。そのため責任者に権限を与え、責任を持たせるということが重要なのではないか。
- ・非常に運営に貢献して黒字にした職員に対して給料を上げてやろうとか、そういう権限がないと難しいのではないかなと思う。今のまさに市民病院がそうであるが、市の職員として扱われていると黒字にするにはそういうところがないと難しい。同じようなことかなというふうに思う。
- ・センターと科学館が対等ということは、科学館にもそれなりのポストの者を置き、科学館の管理権限をその長に与え、同時に説明責任などしっかり持たせるということが必要

である。

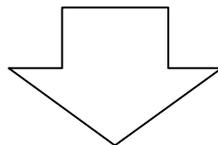
- ・何でもかんでも民間の力を借りてやるということは反対である。これは市の施設として造ってきたわけだから、市の方がそれなりの覚悟を持ってやってもらわないと絶対できないと思う。民間の力を借りるというのは、それはプロセスとしては必要かもしれないが、市役所の方がしっかり責任と自覚を持ってやってもらいたい。そういう体制でいかないとできないと思う。
- ・中で働く職員や来館された人の声などを聞き不都合な点を改善してもらいたい。



科学館の独立と専門職員の配置など

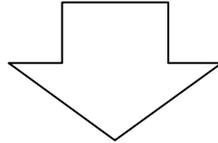
3 運営方法についての意見

- ・はじめて来たときに、どこが科学館なのか分からなかった。科学館の入口をもっと分かりやすくした方が良い。
- ・外観が汚い。外から見てどのような施設か分かるようにすべきである。色合いなども含め、入ってみたいと感じさせるような外観にしてほしい。
- ・知らない人は、ここがどういう施設なのか今のままでは分かりづらい。アプローチが大切。費用をあまりかけずにうまくできる方法があれば、1階から3階までうまく連携するようなデザイン、科学館に来たという雰囲気になればいいと思っている。
- ・3階に行くまでも階段の途中に溶岩が出てくるとか、分かりやすい配置が必要である。
- ・1階と3階があまりに異質であると科学館が死んでしまう。科学館ということで全体的にアピールしていった方が良い
- ・1階部分も有料施設とすることで3階の受付職員を減らすことができるが、展示物の配置換えまで行なうと相当の経費が必要となる。
- ・1階から科学館として、特に教育普及部門を科学館に持たして、全体的に科学館を考えていく。科学館の独自性という部分を発揮してもらいたい。情報ネットワークセンターがあって科学館もあるという位置付けがいいかなと思う。



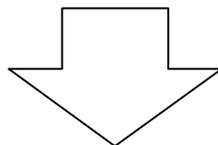
センターと科学館の配置等の検討

- ・「生命の海科学館」は、読み方（「せいめい」、「いのち」）が分からないし、どのような科学館かわかりにくい。



施設の名称の検討

- ・ 入場料金は、無料にすれば来るというものではないと思う。料金をきちんと取って新しい物を入れていく方がやはり存続すると思う。取らなくて設備投資もしないということであれば、ジリ貧になって廃止になっていく。入場料金はきちんと取ってそれだけの内容をやっていくことが大切である。
- ・ 市外の方から700円、市民は無料というのもちょっと理解ができない。市の財政が厳しいのだから、市民にも料金を払っていただく形でいいと思う。
- ・ 市民は無料ということではなく、年間パスポートとか、5年間で500円とか、そういうような形で入場料を少しでもいただくような形を取るべきと思う。
- ・ 市外700円というのは高すぎると感じる。
- ・ 他の施設も回れるパスポートのようなものも考えてみてはどうか。
- ・ 観光客からは入場料を徴収、近隣も含む市民向けに教育施設と考える場合は各学校のカリキュラムと連携した展示を行い無料、趣味や研究のための市民グループの活動・発表・展示の場とする場合は発表者からは施設利用料を、参観者からは入場料を徴収してはどうか。

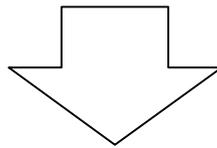


入場料金の見直し

- ・ 単独で考えずに水族館や海辺の文学記念館などとの連携を考えた方が良い。
- ・ 大学との連携などによる魅力作りをどうやっていくかが重要だと思う。
- ・ 市内の理科の先生を含めた運営委員会をつくり、施設を利用する子供たちへの科学プログラムをつくる。
- ・ 教育普及という面に力を入れる必要がある。例えば学校の先生を呼んで「台風はなぜ起こるか」「赤潮はなぜ起こるか」など、毎月1回テーマを設けて生徒たちを集めてはどう

か。

- ・学校への出前講座と学校からの来館をうまく組み合わせることにより、トータルで科学の面白さを伝えていくことができるのではないか。
- ・「でんじろうの科学」のような、実験室でできないことができるという施設であれば、学校がもっと積極的に参加しやすくなる。あそこに行かなければできない実験があるというものをつくってほしい。
- ・地域の子供たちがしっかり使ってもらえるような運営をしてほしい。学校も積極的に使わざるを得なくなるような、学校の授業では実現できない継続性のある体験ができるような施設になってもらいたい。

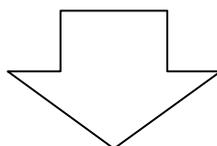


他の施設や大学・学校等の連携

4 評価方法等についての意見

- ・どちらかというと経費削減を中心に運営してきた。財政が厳しいので赤字幅を少なくすることはOKだと思うが、ただ魅力がその分減ってきている。その結果が入館者数の減少という形で表れているのではないか。
- ・営業努力を考えずに、経費節減や人件費を削るから、サービスが悪くなり入場者が減る。営業収入を増やすには、利用者が利用しやすいような営業時間を考えるとか、コンビニ等に入場券の販売をお願いするとか手立てはある。営業努力をせずに費用節減して生き残った企業はない。
- ・行政サービスというのは赤字でもいいというわけではない、もう少し経営感覚というか、利益を上げるためにどうするのかを考えないと、市民のコンセンサスが得られないと思う。
- ・赤字の話ばかり出るが、市民は無料である。収入もないのに赤字が消えるわけがない。いくら市民が入ってくれて賑やかにはなっても、お金は一銭も入らない。
- ・経営改善を前提としてやらなければならない、そういう考えもあれば、教育とか地域のコミュニティ、そういうものを優先すれば、当然採算が後になってくるといようなところもある。
- ・見直し検討委員会のそもそもは、経営改善ということが前提であったと思うが、しかしながらいざこれを進めていこうとすると、それはちょっと難しいという部分もあろうかと思う。

- ・評価としては、ここがいかに関用されるかということだと思ふ。例へば教育の中で出前講座で使うとか、そういうのも1つのこの施設の用法ということであると思ふ。
- ・ネットワークセンターと生命の海科学館が一体として考えられて利用数を見るとか、そういうこともあった。ネットワークセンターとしての評価と科学館としての評価を別々にきちんと見ていくことが必要かなと思ふ。その中で整理をされるべきである。
- ・市が行っている事務事業評価を見てお役所がお役所を評価すると、100は100、99個ぐらい良いというふうに書いてあった。誰が評価するのかというのが問題である。
- ・イメージをチェンジすること。「ああ変ったんだ、館長も変わり、中身も変わり、みんな努力しているんだ」ということをまず市民の方に、市民のそれなりの年配の方に分かっていただいて、まず来てもらい、認めてもらわなければお金には繋がらないと思ふ。
- ・やはり、市外の方もいろいろ含めてどれだけ満足してもらえるのかということに尽きると思ふ。なかなか評価も難しいが、トータルバランスとか市の財政も考えながらどれだけ集客を高めていくかということである。いろいろ批評があるが、トータルに考えていくということが大事かと思ふので、やはり数字が出せるものはできるだけ出していくことが必要ではないかと思ふ。
- ・公的施設の価値であるとか、評価というものを人数とか金額だけでやると必ず偏った評価になる。総合的な評価が必要である。赤字がダメということならやめるのが一番の得策となってしまう。
- ・評価をする場合、観光施設であるのか、教育施設であるのか、文化施設であるかによって評価方法が全く変わってきてしまう。公共施設は何のためにあるのか。公共の存在価値は、本当に来て良かったという気持ちを来た人にどれだけ与えたかにかかっていると思ふ。
- ・施設がどういふふうに関民に役に立っているかということをも定量化する方法は無いのか。定量化できれば役に立っている施設だという評価ができるのではないか。
- ・定量化し目に見えるようにしないと、いろいろやってもゼロに見えてしまう。
- ・赤字の理由を経営者として説明する責任がある。公共サービスだから赤字でも良いというのは理解されない。
- ・市長に報告書を提出するだけで終わるのではなく、定期的に見守るといふかたちで、この委員会が継続して市から状況を報告していただくとかしていけたら良いと思ふ。



評価方法の検討とその確認